

2025年11月22日(土)

「救済論～信仰に生きる私たちの旅路」

北神戸キリスト伝道所 西堀元

第1回 「地図を手に」

序) 救いとは

「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることを、私は認めます。道を歩きながら、あなた方が拝むいろいろなものを見てみると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇を見つけたからです」(使徒 17:22)

ブダの言葉「あなたが自分の光になれ！あなたがあなたの避けどころになりなさい。他のどこにも逃げ場所を見つけない。真理をランプとして握り締めなさい。あなた方は自分以外に避けどころを見つけない。」

歴史の中で

- ・アウグスティヌスとペラギウスの論争
- ・ペラギウス主義、アウグスティヌス主義、セミ・ペラギウス主義、それぞれの救いの理解

1. 救いの秩序

「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。…ところが実際は、彼らは更に優って故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥とはなさいませぬ。神は、彼らのために都を準備されていたからです」(ヘブライ 11:13～)。

「神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです」。(ローマ 8:30)

「主イエス・キリストの名を私たちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされています」(1コリ 6:11)

救いの秩序：「キリストとの結合－召命－再生－信仰と悔い改め－義認－子とすること－聖化－栄化」
(『改革派教義学』5巻による)

「これら全ての祝福は選ばれた者たちに信仰において同時に与えられるものだが、そこには確かに論理的秩序は存在する」(バーフィンク)

2. キリストとの結合

(選び：エフェソ 1:3-4、贖い：ローマ 6：2-11、新しい創造：2 コリント 5：17、持続：1 コリ 1：4、死：1 テサ 4:14、16、復活：1 コリ 15:22、栄光：ローマ 8：17、参考：ヨハネ 15:4、フィリピ 3:8-9)
→「キリストにあって」「キリストにおいて」「キリストに結ばれる」 in Christ (キリストの中で)

「首と肢の結合、我々の心におけるキリストの内住、要するに彼との神秘的合一が我々にとって最高の段階であり…我々は彼にある諸々の賜物の共有者となる」(カルヴァン)

○キリストとの結合の特質

1. 霊的な結合
2. 有機的結合
3. 生命的結合
4. 相互行為を含む結合.
5. 神秘的結合

○キリストとの結合の三つの次元

1. 「永遠的次元」
- 2 「歴史的・客観的なキリスト論的次元」
- 3 「歴史的・主観的な聖霊論的次元」

3. 召命

「召命」(ラテン語：vocatio 英語 calling) 「声」(vox)

「外的召命」(vocatio externa) と「内的召命」(vocatio interna)

「神は、命に予定した者たちすべてを、そして彼らだけを、自ら定めたふさわしい時に、御言葉と御霊により、彼らが生まれながら置かれている罪と死の状態から恵みと救いへ、イエス・キリストによって、有効に召すことをよしとされる。」(ウェストミンスター信仰告白 10 章 1 節)

「外的召命」についてのいくつかの見解

1. ローマ・カトリックの立場：「御言葉なし」(sine verbum)
2. ルター派の立場：「御言葉をとおして」(per verbum)
3. アナバプティスト(再洗礼主義)の立場：直接的な救い
4. 改革派の立場：「御言葉とともに」(cum verbum)
5. アルミニウス主義の立場：セミ・ペラギウス主義的

4. 再生

「パリン・ゲネシア」(ギリシャ語) → 「再び」+ 「成る」つまり「生まれ変わり」の意味

「再生」の前提：全的墮落(例：エレミヤ 17:6、エフェソ 2:1 など)

ニコデモとイエスとの対話(ヨハネ 3 章)

「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」(3:3)

「再生」の本質

1. 超自然・神秘的 2. 聖霊の業は不可抗的 3. 瞬間的変化 4. 根本的変化

「ティアティラ市出身の紫布を商う人で、神をあがめるリディアという婦人も話を聞いていたが、主が彼女の心を開かれたので、彼女はパウロの話を注意深く聞いた」（使徒 16:14）

5. 回心（悔い改めと信仰）

「回心とは再生した人が悔い改めと信仰をもって神に立ち帰る自覚的行為である」（フッケマ）

回心のタイプ：「見せかけだけ」「真の回心」「2度目の回心」「突然の回心」

○悔い改め

「悔い改め」：ヘブライ語では「ナーハム」（「悲しむ」「悔いる」）、「シュウブ」（「立ち帰る」）

「悔い改めとは、再生された罪人が罪から離れ、生活の全面的変化において神に自覚的に立ち帰ることである。その全面的変化とは、思惟と感情と意志の新しい道において示される。」（フッケマ）

- ・ 人の業として（イザヤ 55:7、エゼ 33:11、マタイ 4:17、使徒 3:19, 26:18、26:20）
- ・ 神の業として（使徒 11:18、ヨハネ 6:65）

○信仰

「信仰」 < 「信じる」（動詞の表現が多い）

「ハイデルベルク信仰問答」 問 2 1

問 「まことの信仰とは何ですか」

答 「それは、神が御言葉において、わたしたちに啓示されたことすべてを、わたしが真実であると確信する、その確かな認識のことだけでなく、福音を通して聖霊がわたしたちのうちに起こしてくださる、心からの信頼のことでもあります。それによって、他の人々のみならずこのわたしにも、罪の赦しと永遠の義と救いとが神から与えられるのです。それは全く恵みにより、ただキリストの功績によるものです」

i) 「信仰」と「知識」

ii) 「信仰」と「同意」

iii) 「信仰」と「信頼」

「キリスト」=救いの道

